

9 公益総合研究センターの活動

I. 公益ビジネス研究プロジェクト

1. 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（社会連携研究推進事業）による研究

（1）海外研究機関と研究協力を合意

平成 19 年より毎年研究協力を進めてきた英国ティーズサイド大学の附属機関「未来社会研究所（Social Futures Institute）」と、社会的企業の日英比較研究などの分野で研究協力を継続していくための合意書を締結することとなった。今後、文書の締結を行い、更なる研究を深めていく予定である。

（2）公開シンポジウム等の開催

① 連続講座「内川学 第二講『川をいかした物語性のあるまちづくり』」の開催

「内川再発見プロジェクト」の一環として、平成 21 年度より、内川が市民生活とどのように結びついてきたかを探り、それをまちづくりに活かす「内川学」の試みを連続講座形式で行っている。平成 22 年 10 月 16 日（土）に大学院ホールで実施した第 2 講では、大泉橋とその橋詰空間に着目し、大泉橋の歴史、橋詰のイチローヂ商店や料亭田鶴舎の繁栄の歴史、船着場を中心とする物流の歴史を明らかにし、イチローヂ商店の利活用を含めた橋詰空間全体の活性化方策について、発表者と参加者が議論を交わした。また、参加者からのリクエストもふまえて、同タイトルの研究発表報告書を作成した。

<内容>

基調講演：「都市空間と物語－大泉橋の橋詰空間をめぐる－」

◎高谷 時彦（本学教授）

研究報告：「市郎治商店・田鶴舎・橋－人々の暮らしと橋詰空間－」

◎國井 美保（公益総合研究センター 学外研究員）

研究報告：「山王商店街のこれからと大泉橋界限に期待するもの」

◎三浦 新 氏（山王商店街振興組合 理事長）

会場セッション：

◎コーディネーター 高城 豪（本学大学院公益学研究科 修士課程 2 年）

② 公益ビジネス研究プロジェクト最終報告シンポジウム及びパネル展示

平成 23 年 3 月 1 日（火）から 13 日（日）まで、「鶴岡まちなかキネマ エントランスホール」で、研究成果のパネル展示を行った（シンポジウムは震災の影響により中止）。

<内容>

◎松文産業鶴岡工場の建築：工事前の現況と復原図

◎まちなかキネマの計画案

◎松文産業鶴岡工場のあゆみと人びと

（創業 昭和 7（1932）年 ～ 満 20 周年 昭和 27（1952）年まで）

(3) 海外調査の実施

21世紀の都市・地域づくりの課題は機能性・効率性だけではなく、地域独自の伝統や文化に根ざし、精神的な充足感をも得ることが出来るような個性的な都市空間と、持続可能な地域社会の仕組みをつくることにある。公益ビジネス研究プロジェクトでは、この観点に基づき、庄内地域におけるモデル構築を念頭に先進事例の収集と分析を行ってきた。平成22年度は、文化的伝統や景観など地域固有の魅力を基盤としたうえで、食材など地域産物を住民の主体的な参画で地域ブランドにまで高める個性的なまちづくりを行っている地域や、人々の創造性を基盤においた文化と産業の興隆に成功している都市を対象として、リヨン、アヴィニョンを含むフランス南部地域とイタリア・ボローニャを訪問し、現地調査を行った。

期間：平成22年8月26日（木）～9月6日（月）

出張者：渋川 智明（本学教授）

高谷 時彦（本学教授）

(4) 年次報告書等の刊行

平成22年12月にニューズレターVol.5（表紙含め12ページ）を、平成23年3月に年次報告書Vol.5（表紙除き80ページ）を刊行した。

(5) その他

本研究プロジェクトは、「私立大学学術研究高度化推進事業」に係る中間評価（平成20年度実施分）に続き、最終年度の事後評価においても2名の評価者両方からA評価を受けた。なお、A評価（優れた研究成果を上げている。）は全体の約38%、B評価（研究成果は上がっている。）が全体の約50%、C評価（あまり研究成果が上がっていない。）が全体の約12%となっており、評価者が2名ともA評価を与えたということは、本プロジェクトが極めて優れた研究成果を上げていることを示している。

2. 受託研究・受託事業

(1) 受託研究

① 羽黒地域手向地区における「歴史的風致維持向上計画策定事業」に係る調査研究

研究者：高谷 時彦 教授

委託者：鶴岡市

研究期間：平成22年7月1日～平成23年3月31日

契約金額：500,000円

研究目的及び概要：

次世代に残すべき手向らしいまちなみとは何か、またその手向らしさを支えている社会経済システム、修験道を背景とする地域の文化を明らかにするための現況実態調査を行う。その知見を参考としながら、住民自身の手で、地域の個性、固有性を判定し、手向の街並みをどのように維持・復元するかの方角を示す。またその方向性に向けて何をなすべきかについての合意形成を図る。

成果：

3月22日(火)に手向地区住民への研究報告会を実施し、話し合った内容を計画遂行の手引きとなるような形の報告書としてまとめる予定だったが、震災の影響により報告会は中止となった(平成23年度に実施予定。)。ただし、研究調査報告書は予定どおり提出した。

② 史跡松ヶ岡開墾場内に存する旧松岡蚕種(株)跡地の利活用計画の作成

実施者：高谷 時彦 教授

委託者：鶴岡市

実施期間：平成22年8月20日～11月30日

契約金額：380,000円

事業目的及び概要：

松ヶ岡開墾場中央部に残る、旧松岡蚕種(株)跡地の利活用のあり方について、地域ワーキング会議で出された意見をもとに、具体的な利活用計画を提案する。

成果：

地域ワーキング会議にて経費も含めた模型・図面などによる利活用計画のプレゼンを行った。委託者である鶴岡市は本プロジェクトの研究成果を基に文化庁への申請を検討中。

③ 養蚕を核とした農業スモールビジネスの育成開発基礎調査等業務委託

実施者：本学非常勤講師 飯盛義徳氏(慶應義塾大学准教授)

本学客員教授 太下義之氏

(三菱UFJリサーチ&コンサルティング主席研究員)

委託者：鶴岡市

実施期間：平成23年1月18日～3月31日

契約金額：673,050円

事業目的及び概要：

養蚕を核とした農業スモールビジネスの育成開発に向けた基礎調査として、現状と課題を整理し、新たな養蚕などの担い手を育成、開発するための可能性と具体的な手法の提案を行った。

成果：

飯盛義徳氏が報告書を作成、提出した。

(2) 受託事業

① 介護老人福祉施設 池幸園「利用者ご家族アンケート」調査

実施者：照井 孫久、武田 真理子(本学准教授)

委託者：介護老人福祉施設 池幸園

契約期間：平成22年10月12日～平成22年11月5日

契約金額：15,783円

事業目的及び概要：

介護老人福祉施設池幸園が提供するサービスのさらなる改善に向けて、利用者家族を対象に現在のサービス内容の満足度ならびに施設への要望に関する調査を実施する。本学は平成 20 年に同施設の同調査を受託しており、その経緯から第 2 回目となる今回の調査依頼を受けた。

成果：

選択式設問(19)と自由回答設問(1)から構成されたアンケート調査票を作成し、事業所が記入者を特定できないように統計的な処理を行い、報告書を提出した。

II. ニュージーランド研究プロジェクト

(1) 研究会の開催

① 第 26 回研究会

日時：2010 年 4 月 28 日（水）18:00~19:30

場所：東北公益文科大学教育研究棟 2 階 203 教室

報告者：田中和代（本学学生共育支援室 副室長）

テーマ：「障害を持つ学生への支援の視点から見たニュージーランド」

コメンテーター：澤邊みさ子

② 第 27 回研究会

日時：2010 年 7 月 29 日（土）18:00~19:30

場所：東北公益文科大学本部棟 31 会議室

報告者：和田明子（本学准教授）

テーマ：「ニュージーランドにおける 2008 年総選挙後の公的部門改革の動向」

③ 第 28 回研究会

* 日本ニュージーランド学会、ニュージーランド学会との合同研究会

日時：2010 年 10 月 30 日（土）14:00~17:00

場所：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科会議室 西早稲田ビル 7 階・713 室

報告者・テーマ：

<第 1 報告> 澤田真一（弘前大学）

「隠蔽されてきたもうひとつの開拓女性像：ヴィンセント・ウォードの

『リバー・クィーン』を中心に」

<第 2 報告> 武田真理子（本学准教授）

「地域コミュニティとの協働を模索するニュージーランド社会保障制度

ーコミュニティ・リンクの動向を中心にー」

<第 3 報告> 太谷亜由美（関西大学）

「ニュージーランドの育児関連政策の現状」

④ 第 29 回研究会

日時：2010 年 12 月 20 日（月）18:00~19:30

場所：東北公益文科大学本部棟 31 会議室

報告者：Adrian Paterson（本学講師）

テーマ：「New Zealanders in Australia: My experience of studying for a PhD
at the University of Melbourne」

(2) 『ニュージーランド・ノート』第 12 号の発行

600 部発行し、約 250 部は県内外の関係機関・団体、個人に発送、その他は学内外で配付し、本学講義などで活用している。

<内容>

第 12 号（2011 年 3 月）

【研究・報告】

マオリ王戴冠記念式典と「海洋および沿岸領域法案」・・・杉原利治（岐阜大学教授）

庄内の風格とニュージーランドの品格・・・・・・・・・・宮本忠（前本学特任教授）

私のニュージーランド資源管理法への関心・・・・・・・・・・内藤悟（本学講師）

パンジー・ウォン大臣との懇談会について・・・・・・・・・・和田明子（本学准教授）

【ニュージーランド短期留学報告】

ニュージーランド短期留学に同行して・・・・・・・・・・大歳恒彦（本学教授）

大切なもの・・・・・・・・・・池田涼（本学 3 年生）

Happy Life・・・・・・・・・・齋藤苑子（本学 3 年生）

My Treasure・・・・・・・・・・鈴木美夏（本学 3 年生）

Changing Myself・・・・・・・・・・田中俊也（本学 3 年生）

車イス利用学生のニュージーランド語学留学についての支援

・・・・・・・・田中和代（本学学生共育支援室副室長）

『ノート』メモ

(3) ニュースレター「アオランギ」第 26 号～28 号の発行

各号とも、約 250 の県内外の関係機関・団体、個人に発送、その他、学内外で配布・活用している。

(4) 酒田市図書館報『光丘』への連載記事の執筆

酒田市立中央図書館よりニュージーランド研究所に対して、平成 22 年度の図書館報『光丘』への連載記事の執筆依頼があり、受託した。執筆は学内研究員が担当し、各号の内容は次のとおりであった。

・第 136 号（2010 年 6 月 1 日）澤邊みさ子「ニュージーランドにおける障がい者への対応」

・第 137 号（2010 年 10 月 1 日）武田真理子「酒田とニュージーランド」

・第 138 号（2011 年 2 月 1 日）和田明子「ニュージーランドと日本」

(5) 東北公益文科大学メディア・センター「ニュージーランド文庫」の充実への協力

本学のメディア・センター「ニュージーランド文庫」のさらなる充実のために、社会

科学、人文科学を中心とした最新のニュージーランド文献、寄贈文献、その他資料等を選定し、メディア・センターに寄贈した。

(6) その他の学内外の活動

今年度も、本学ニュージーランド短期留学プログラムの運営協力、国内メディアへの取材協力、酒田市内のまちづくり勉強会の開催協力をはじめとし、学内外の様々な事業、研究活動への協力活動を実施した。

また、2011年2月22日のクライストチャーチ大地震では被災者に対する募金活動を行い、3月31日までに60,627円と1USドルを集めた。募金は、駐日ニュージーランド大使館と協議して、全額をニュージーランド政府の公式募金受付窓口に寄付した。